

逆境にくじけず

加藤 享

[聖書]創世記 41 章 25～40 節

ヨセフはファラオに言った。「ファラオの夢は、どちらも同じ意味でございます。神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお告げになったのです。七頭のよく育った雌牛は七年のことです。七つのよく実った穂も七年のことです。どちらの夢も同じ意味でございます。その後から上がって来た七頭のやせた、醜い雌牛も七年のことです。また、やせて、東風で干からびた七つの穂も同じで、これらは七年の飢饉のことです。これは、先程ファラオに申し上げましたように、神がこれからなさろうとしていることを、ファラオにお示しになったのです。今から七年間、エジプトの国全体に大豊作が訪れます。しかし、その後に七年間、飢饉が続き、エジプトの国に豊作があったことなど、すっかり忘れられてしまうでしょう。飢饉が国を滅ぼしてしまうのです。この国に豊作があったことは、その後に続く飢饉のために全く忘れられてしまうでしょう。飢饉はそれほどひどいのです。ファラオが夢を二度も重ねて見られたのは、神がこのことを既に決定しておられ、神が間もなく実行されようとしておられるからです。このような次第ですから、ファラオは今すぐ、聡明で知恵のある人物をお見つけになって、エジプトの国を治めさせ、また、国中に監督官をお立てになり、豊作の七年の間、エジプトの国の産物の五分之一を徴収なさいますように。このようにして、これから訪れる豊年の間に食糧をできるかぎり集めさせ、町々の食糧となる穀物をファラオの管理の下に蓄え、保管させるのです。そうすれば、その食糧がエジプトの国を襲う七年の飢饉に対する国の備蓄となり、飢饉によって国が滅びることはないでしょう。」

ファラオと家来たちは皆、ヨセフの言葉に感心した。ファラオは家来たちに、「このように神の霊が宿っている人はほかにあるだろうか」と言い、ヨセフの方を向いてファラオは言った。「神がそういうことをみな示されたからには、お前ほど聡明で知恵のある者は、ほかにはいないであろう。お前をわが宮廷の責任者とする。わが国民は皆、お前の命に従うであろう。ただ王位にあるということだけで、わたしはお前の上に立つ。」

[序] 世界経済激動のさなかに

15日に、アメリカの証券会社第4位のリーマン・ブラザーズが公的資金の救済を得られずに経営破綻し、世界の株式市場で株価が暴落し始めました。次は世界最大級の保険会社 M I G が危ないと言われ、シンガポールで保険契約の解約者が会社に殺到している様子が TV に写りました。会社が破産しない内に、少しでも保険金を取り戻したいからと、慌てふためいている様子でした。ところが17日に M I G は9兆円の公的資金援助で救済されました。株式市場は持ち直してきたとか。安い金で保険を解約したシンガポールの人たちは、さぞ口惜しがっていることでしょう。

しかしその後、銀行が危ないという**金融不安**が世界に拡がり、世界経済は予断を許さない状況に直面しているようです。日本銀行も短期金融市場に 1800 億ドルの**ドル資金供給**をしました。異例の措置だそうです。自民党の総裁選挙で5人の候補者が全国主要都市を廻っ

て、宣伝カーの上から揃って街頭演説しています。福田首相は、国会を乗り切る展望が開けないから、ここで自分が辞職し、活発な総裁選挙を展開して自民党に対する世論の支持を取り戻そうと目論んだようですが、**世界経済の激動**を前にしては、何かコップの中で茶番劇をやっているようで、滑稽に見えてきました。一体日本の国はどうなっていくのでしょうか。

[1] 不思議な歴史のドラマ

今から約3700年前のことです。世界は、あの大ピラミッドを作り上げる国力を持つエジプトを中心に、**深刻な大飢饉**に見舞われようとしていました。大勢の人が餓死します。ところが人々はその危機に気付いていません。ユダヤの地では10人の羊飼いたちが野原で羊を飼いながら、父親に特別可愛がられる弟をいつそのこと殺そうかと企んでいます。エジプトの侍従長の家では、有閑マダムが浮気にうつつを抜かしています。世界はどうなるのでしょうか？

やがて神さまはエジプト王に警告を發しました。エジプト王が**不思議な夢**を二つ続けて見たのです。さすがに国王です。彼はひどく心が騒いだので、国中の魔術師・賢者を呼び集め、その意味を尋ねましたが、解き明かす者がいません。その時給仕長が、2年前に或る事件の嫌疑で監獄に投じられた時に、夢を解いてくれたヘブライ人の奴隷**ヨセフ**を思い出しました。こうして無実の罪で長い監獄生活を送っていたヨセフが、国王の前に呼び出されます。

王の夢は7年の大豊作の後に、ひどい飢饉が襲うという**神の警告**でした。大豊作が続く間に飢饉に対する備えを万全にしておかなければ、国が滅びてしまいます。誰も気付かずにいた**国家の危機**を適切に解き明かしたヨセフに、国王も家臣一同も感嘆しました。彼は一躍総理大臣に抜擢され、全てを任せられます。彼は見事に任務を果たして、エジプトを救い、また食料を求めて世界各地から集まって来た人々をも救いました。

ユダヤ地方で暮らしていた**ヤコブ一族70人も**、ヨセフのお蔭でエジプトに暖かく迎えられ、ゴセンに移住出来ました。彼らはその地で増え広がり、強力な民族へと成長していきます。アブラハム夫婦に始まった神の民イスラエルが、民族として成長することになる歴史の発端です。それにしても、大飢饉の時に、ヨセフがエジプトの総理大臣になっていたとは、何とも**不思議な歴史のドラマ**ですね。

ヨセフが父の偏愛を受けて、兄たちに憎まれているにもかかわらず、兄たちが自分にひれ伏す夢を見たと言った、彼らを一層怒らせた時が**17才**でした。兄たちに荒野の空井戸に投げ込まれ、商人の手でエジプトへ連れて行かれたのはその1年以内、**18才頃**でしょうか。侍従長の家の奴隷となり、やがて主人の信頼を得て、家の管理や財産の一切を任せられるようになりました。すると美男で体格も良いこの若者に惹かれた主人の妻が、しきりに誘惑します。そして応じない彼に腹を立てて夫に讒言し、彼は監獄にぶち込まれてしまいました。侍従長の家には、3年位働いていたということで **22 才位**になっていたとしておきましょう。エジプト国王の前に立った時が**30才**ですから、**獄中生活8年余**。どんなに長かったことでしょうか。

[2] 草津の母様リー宣教師

先週14日の午後聖公会教会で、**コーンウォール・リー宣教師**の記念講演会に出席しました。草津温泉に集まったハンセン病患者から、「母様」と慕われた方です。リー先生は50才でイギリスから日本に来られ、59才になって草津に移りました。約20年間、世から捨てられた病者に仕え、冬の厳しい寒さに耐えられなくなってとうとう山を降り、1941年12月18日、太平洋戦争勃発10日後に、明石で79才の生涯を閉じられました。

特効薬プロミンが開発され、戦後に治療効果ははっきりするようになるまでは、**ハンセン病**は恐ろしい遺伝病だから、患者を**社会から隔離する**以外にないという考えが定着していました。リー先生もその考えを持ち、男性、女性、妻帯者、また子供たちの施設を設け、生活規則を一応決めましたが、自分の考えを押しつけず、それぞれの境遇を受け容れ、**病者に寄り添って共に生きよう**とされました。

自分の財産はみな献げながら、自分は必要最小限なものだけ。**ストーブ**すら持ちませんでした。健康のために是非**ストーブ**をと小切手が送られても返してしまいます。ハンセン病の友人たちが**火鉢**だけなのに、自分だけ暖をとる気にはなれないとのことでした。病者は**死んでも湯灌**しないで土葬されました。しかし先生は腐って異臭を放つ遺体を丁寧に洗い、火葬して埋葬しました。その遺体は数百体に上り、やっと皆が遺体を丁寧に葬るようになりました。

リー先生は宣教師として日本に来る前は、イギリスで**女流文学者**でした。43才の作品”**Gold**

in the Furnace”（厳しい試練に錬られた金）は、無実の罪で裁判にかけられ、牢獄に三ヶ月閉じ込められた若い女性の心の闘いと、やがて一切を試練として受け容れ、信仰を磨いていく姿を描いたものです。10代後半から20代前半の読者を念頭において書かれたものだそうです。

主人公は14才で父親と死別し、養父に育てられます。勤勉で誠実で健気な娘に成長しました。それなのに「自惚れて、思い上がっている」という陰口が耳に入り、ショックを受けました。教会で、奴隷としてエジプトの売られた**ヨセフ**が、無実の罪で長い獄中生活を余儀なくされましたが、その試練によって**自惚れを焼き尽くされて、人に仕える者に成長した**という説教を聞きました。

主人公は自分に対抗意識を持つ女性から、その人が犯した罪を一方的になすり付けられて裁判にかけられました。**正義の叫び**を上げたい衝動に駆られますが、自分を練り清める**試練として受け止める**ことにしました。弁明をしないために有罪となり、投獄されます。身体検査を受けて囚人服に着替えさせられた時に、激しい**屈辱感**がこみ上げてきました。陰鬱な獄中生活での数々のおぞましさ。

監獄付チャプレンが言いました。「間違ったことをしていないのに受ける苦しみは、私たちの捧げる**神への贈り物**です。他の人の罰を担うのであれば、それは神に対して**最大の榮譽**

になるでしょう」「でも自分から罰を引き受けようとしたのではありませんでした」「自分で選びとったことにすることは出来ますよ」 無実の罪で投獄された獄中生活での心の戦いは容易なものではありませんでしたが、不当な裁判と十字架刑を、黙って引き受けられたイエス・キリストを見上げることによって、乗り越えていったのでした。

これが、リー先生の作品”Gold in the Furnace”の概略です。先生は、自惚れや思い上がりや捨てて、ハンセン病者にひたすら仕える自分になりたいと、**無実の罪で長い監獄生活を送ったヨセフ**を、いつも心に覚え続けておられたようでした。

[3] 「主が共におられる」とは

リー先生の作品の主人公は、**3ヶ月の監獄生活**でしたが、その短い期間でさえも、**心の葛藤**は大変なものでした。一方ヨセフの監獄生活は22才頃から30才まで8年に及ぶものでした。何と長い監獄生活だったことでしょうか。殊に28才の時に、監獄に入って来た王の給仕長の夢を解いて上げた時には、救い出されるチャンス到来かと期待を抱いたのではないのでしょうか。しかし無情にも忘れ去られてしまいました。

所詮エジプトという大国の監獄に、囚人として投げ込まれた奴隷のユダヤ人に過ぎません。誰にも顧みられず、忘れ去られてしまっただけで当然でしょう。救い出される可能性など、ゼロに等しい。このような**絶望的状况に置かれて**、よくもまあくじけることなく、**耐えることが出来たもの**です。秘訣はどこにあったのでしょうか？

39章の初め、侍従長ポティファルに奴隷として買い取られた時、「**主がヨセフと共におられたので**」彼のなすことがすべてうまくいって、主人の信頼を得るようになったと、二度繰り返して記述されています。また39章の終わり、女主人の讒言で監獄に入れられてからも、「**主がヨセフと共におられ**」、恵みを施し、万事がうまくいくので、看守長の信頼を得たと、二度繰り返して記述されています。

ヨセフは女主人の強い誘惑に対して、主人の信頼を裏切る大きな悪を働いて、神に罪を犯すことができませんと、きっぱり拒否しています。神さまはこのようなヨセフを何故お守りにならなかったのでしょうか。ヤコブの秘蔵息子からエジプトの奴隷に転落し、更に監獄へと**転落**していく人生が、どうして「**主が共におられる**」と言えるのでしょうか？

私たちは7月から、アブラハム、イサク、ヤコブを学んで、ヨセフまで来ました。神さまは地上の氏族**すべてを祝福する源**として、先ずアブラハムをお召しになりました。そしてその子のイサクを、そしてヤコブをお召しになりました。彼らの生涯には、**すべての人に救いが及ぶよう**にと働かれる神さまが、自分と共にいてくださり、お用いになっているのだという信仰が一貫していました。ヨセフもその信仰を受け継いでいたのです。

ヨセフは国王の夢を解くにあたって「**神がこれからなさろうとしていることを**、ファラオにお告げになったのです」「**ファラオが夢を二度も重ねて見られたのは、神が間もなく実行されようと**

しておられるからです」と語っています。ヨセフは神さまがこの世界でどうお働きになるかに注目しています。そして御心にそって多くの人の祝福になるように、自分も働かねばと考えています。

ヨセフは、自分ひとりの人生が、自分の願い通りにうまく行くかどうかではなくて、多くの民の祝福のために、主が私と共にいてくださるという信仰によって、生きていたのです。だから彼は女主人の讒言に対して、取り乱した自己防衛に走らず、神さまに一切を委ねました。給仕長の期待はずれにも、絶望しませんでした。そして神の備えておられる時を、待ったのです。

[結] 神による人格形成

子供の教育やしつけには、生活環境が大切だと言われています。孟子の母はわが子の教育のために、三度も住いを変えました。としますと監獄など最も劣悪な教育環境です。ヨセフは20代の殆どをその劣悪な境遇で過さなければなりません。しかし彼は30才でエジプト国王の前に立った時、王や家来一同に大きな感動を与える人間になっていたのです。

私たちの人格形成に、何が一番大切か。「神がそういうことをみな示されたからには、お前ほど聡明で知恵のある者は、ほかにはいないであろう。」この国王の言葉がいみじくも言い得ています。「**神が示された**」そうです。ヨセフは多くの人によって傷つけられ、不当な扱いを受けました。しかし歴史に働き、また自分の内に働いて下さる神さまに、いつも注目して生き抜きました。それが彼を**聡明で爽やかな人格**の持ち主に育てたのです。

ヤコブは父を騙して家に居れなくなり、野原で石を枕に地面に横たわって、たった一人で一夜を明かしました。しかしどん底に沈む彼の傍らに、神さまが立ち、語りかけて下さいました。「**まことに主がこの場所におられるのに、私は知らなかった**」そうです。神さまが居てくださらない場所など、この世界にはないのです。ヨセフは**主と共に**おられる**信仰**を、父からしっかりと受け継いでいたのです。

私たちも、神さまと共にいてくださる信仰を持ち、聡明で爽やかな人格を養い、多くの人に神さまの祝福が及んでいく働きの、用いられる者になっていきたいものです。 完